

カランコエの炭酸ガス施用による開花促進

カランコエは埼玉県の主要な鉢花の1つで、一年中出荷されており、全国でトップクラスの生産量を誇ります。しかし、冬期は低日照により開花が遅れやすく、暖房費の負担が大きくなるため、栽培期間の短縮が課題となっています。

そこで、一般的な植物と異なり夜間に光合成を行う特性を生かし、温室を密閉している時間帯(17:30~翌日8:00)の炭酸ガス(濃度800ppm)施用効果を検討しました。その結果、節数が12節以下の苗に44日間以上(開花するまでの期間)施用すると開花が早まり、出荷が前進しました。

炭酸ガス施用開始ステージ(節数)による開花促進効果

(品種:カランディコト)



無処理 炭酸ガス施用

(炭酸ガス 44日処理後: 12月10日)

(施設園芸先端技術担当 TEL 048-536-3091)